

「聖書の御言葉に支えられて歩もう」

ヨハネの黙示録 1章9～20節

日本キリスト教団巣鴨教会牧師・本学講師 渡辺 善忠

ヨハネの黙示録が書かれた紀元後90年代に、ローマ帝国の皇帝ドミティアヌスは教会を激しく迫害していました。ドミティアヌスは、ローマ皇帝を礼拝することを拒んだ教会の人々を迫害し、多くの人々が殉教しました。黙示録の著者ヨハネはエフェソ（現在のトルコの西側）で伝道していた時に捕えられ、エーゲ海のパトモス島へ流され、犯罪者が働く炭鉱で厳しい労働を強いられました（9節）。

このような状況の中で、神はヨハネへ「あなたの見ていることを巻物に書いて～教会に送れ」と命じられました（11節）。「巻物」という御言葉には、ヨハネの黙示録を含めた聖書全体を示す象徴的な意味があります。ヨハネの黙示録が書かれた時代には、新約聖書の元の文書がほぼ書き終えられ、広い地域の教会で読まれていました。このため神は、ローマ帝国から迫害されていた教会の人々を慰め、励ますために、ヨハネをはじめとする人々に新約聖書の御言葉を記すように命じたと考えられています。

「七つの燭台は七つの教会である」という御言葉には、教会の人々が迫害の中で、燭台に灯をともして、隠れるように歩んでいたことが示されています（20節）。また「声は大水のどろきのもようであった」という御言葉には、困難に直面している教会に、神が聖書を通して力強く語りかけて下さることが示されています（15節）。

このような背景は、二千年の時と場を越えて私たちにも大切な意味があります。なぜなら神は、黙示録が書かれた時代の人々を慰め、励ましたように、聖書の御言葉と聖霊（神の見えない力）によって、困難に直面している私たちを守り導いておられるからです。私たちは、黙示録が書かれた時代の教会の人々がローマ帝国から迫害されていたように、暴力や虐待を受けることはないかもしれませんが、しかし、新型コロナウイルスをはじめとして、自分の考えや力で解決できない困難に直面することがあります。そのような時に、神は聖書の御言葉と聖霊によって私たちに最善の道を示して下さいます。この意味を心に刻み、厳しい状況の中でこそ、日常の小さなところから感謝と喜びを見出しながら、困難を乗り越えられるように祈り合いたいと思います。

主イエス・キリストの父なる神様。あなたが私たちの日々の歩みを支えておられる恵みに心から感謝致します。ヨハネ黙示録には、教会の人々がローマ帝国から迫害されていた時に、あなたのお言葉に支えられて歩んでいたと伝えられています。世界中が大きな苦難

に直面している今、聖書の御言葉と聖霊によって、私たちに最善の道を示して下さい。また、厳しい状況の中でこそ、日常の小さなところに感謝と喜びを見出しながら、困難を乗り越えることが出来ますように守り導いて下さい。

感謝と願いを、主イエス・キリストの御名によってお祈り致します。アーメン。

2020年10月14日 聖学院大学 全学シリーズ礼拝「苦難を乗り越える」